

# 一般社団法人 Masterpiece

マスターピース

児童養護施設や里親家庭（社会的養護等）

を巣立った若者たちのサポート事業

代表理事：菊池 まりか（まりっぺ）



## ◆Masterpieceについて

社会的養護等を巣立った若者たち  
(虐待などで親を頼りづらい若者たち)  
に必要な活動をする

ことを目的とします。

活動2015年～ 法人2017年11月～

# ◆Masterpieceについて

## Masterpiece

(マスターピース) とは？

# 「最高傑作」

“最高なあなたとして生きる！”





## ◆自己紹介（経験）

### ■児童養護施設勤務

2010～ 児童養護施設 住込み児童指導員 5年 事務 1年

### ■児童相談所勤務

2018～ 非常勤職員 4年 2自治体  
(虐待対応協力員 2年 里親担当 2年)

### ■社会的養護出身者サポート事業

2017～ 一般社団法人Masterpiece 代表理事  
OUR VOICE（社会的養護経験者の声を届ける活動）

2019～ 社会的養護経験者全国交流会 運営委員

### ■アドボカシー団体

2020～ 一般社団法人こどもの声からはじめよう理事

2021～ 子どもアドボカシー研究会 運営委員

# 菊池まりか



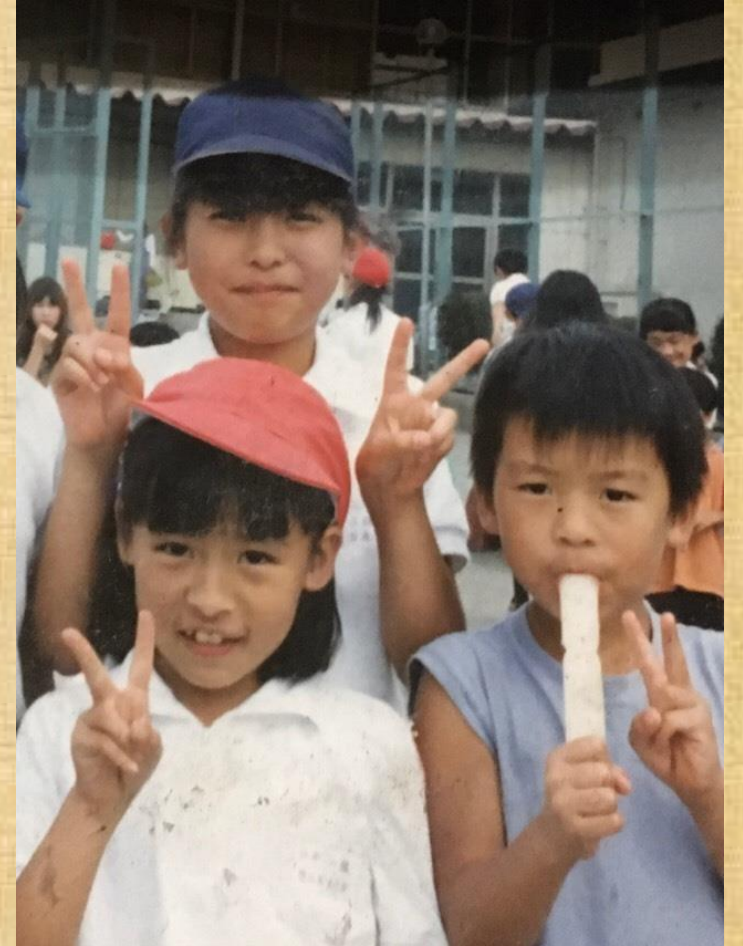
保育士  
社会福祉士



## ◆自己紹介（生い立ち）

- 母：身体障害をもつ 福祉との関わり
- 幼少期：いじめられていた
- 小中学生：自己肯定感低い
- 高校時代：変化
- 大学時代：

**人の変化に関わる仕事をしたい！**



▲菊池

# ◆Masterpieceについて



住居 サポート

食料 サポート

ユースサロン

家電家具寄贈の仲介

同行サポート

発信活動

その他 相談



◆シェアハウス  
女子ハウス あるふぁ  
男子ハウス ベータ  
女子ハウス とろの森  
女子・母子 MANAHOUSE

◆シェルター 八王子・市川



◆セカンドハーベスト  
ジャパン  
◆フードバンクちば  
◆アーバンファーマーズ  
クラブ

◆NPO法人  
プラネットカナル



# 発信活動について





# OUR VOICE OUR TURN JAPAN



## ●カナダトロント市のアドボカシーセンターの取組

- ・当事者の若者たちが州政府に働きかけ、法改正へとつなげた。
- ・プロジェクト名が「OUR VOICE OUR TURN」というものだった。

## ●日本でも！

- ・2017年5月～日本の当事者の若者たちと月に1度ミーティング
- ・2018年4月 冊子「僕らの声」発行
- ・2018年5月 発表会「僕らの声」 100名程参加
- ・2019年～2020年 厚労省ヒアリングに参加
- ・現在は全国社会的養護経験者ネットワーク等がある

# OUR VOICE OUR TURN JAPAN



カナダトロント市 アドボカシーオフィス所長 来日



# GARALLY

発信活動OUR VOICE  
ミーティングの様子。





# GARALLY

発信活動OUR VOICE  
ミーティングの様子。



GARALLY

発信活動OUR VOICE

施設出身のユース  
たちと作成。





# 冊子：「僕らの声」

「施設を出たら自己責任」

「周りの友人は遊んでいるのに自分はアルバイトばかり」

「急な出費に困った」

「大学学費無償にしてほしい」

「アフターケア、制度的にも信頼関係的にもしっかりしてほしい」

「誰に頼ったら良いのかわからない」

「担当の施設職員はもういないから、帰りづらい」

「体調崩した時大変」

「お金の管理が難しい」 など

2017年 社会的養護経験者へヒアリング





## コロナ禍 緊急基金 プロジェクト

2020年4月コロナ禍  
第1回 緊急事態宣言  
生活が苦しくなった  
若者に現金支給



# 2020年4月の緊急事態宣言を受けて

- 「施設出身者の家賃補助がほしい」
- 「学生だけでなく、就労者にも支援がほしい」
- 「親が頼れないことで手続きが複雑で難しくなる」
- 「いきなり自立なんてできない」
- 「施設出身、障害持ち、うつ病もある」
- 「助けを求めても施設の職員からLINEの返信が来ない」
- 「施設出身者の支援はあるけど、母子生活支援施設、自立援助ホーム、シェルター出身者の支援が少ない」
- 「里親家庭出身だから頼れるという訳ではない」
- 「多様性に対応してほしい」



2020年5月～6月調査 17～29歳 社会的養護経験者



# 厚労省ヒアリング

2019年 社会的養護自立支援強化に向けた意見交換

2020年 社会的養護自立支援強化に向けた意見交換

**OUR VOICEとして  
社会的養護経験者の若者と参加**





# こども家庭庁に期待すること

- 声をあげられない方の声をどう聴くか  
→聴くためにトレーニングされた人材が必要
- ヒアリングには費用と時間が必要  
→ヒアリング対象者への謝礼が必要
- 声の取り扱われ方・聴きっぱなしにならないために  
→その後のフィードバック  
また制度ができる段階でも子ども若者の意見を聴く



# その他 活動の様子





# GARALLY



食料配送の様子





# ユースサロン

ユースサロン  
月に1回開催





# ユースサロン

年末年始は、  
実家感覚で  
年末年始ユースサロン  
2泊3日オープン





中退

妊娠

施設を退園した  
若者たち・・・

大切にしていた  
思い

孤立

離職

彼らは  
悪くない

社会を作った  
一員として  
できることを





次のステップを踏めるための

# シェアハウス

をつくりたい！





# シェアハウス

第1号ハウス  
女子ハウス あるふぁ

2018年～2022年  
千葉県市川市

2022年～  
千葉県柏市へ移転

5名入居可  
短期2名滞在可



移転後





# シェアハウス

2018年～  
男子ハウス ベータ  
千葉県千葉市

2021年  
千葉市内で移転

男子 2名入居可



# シェアハウス



2021年～  
女子ハウス とろの森  
埼玉県さいたま市

女子 2-3名入居可



# シェアハウス

2021年～  
女子・母子ハウス

MANAHOUSE  
with YOUTH  
ICHIKAWA

千葉県市川市

6世帯入居可





# Masterpiece緊急基金 クラウドファンディング プロジェクト報告書



2020年7月発行  
一般社団法人Masterpiece

# 目次

■報告

■プロジェクト概要

■若者の応募状況

■若者の声

■ユーススタッフ紹介

■コラム

～クラウドファンディングを終えて～

■おわりに

■Contents

達成金額

5,045,000円

パトロン様

527名

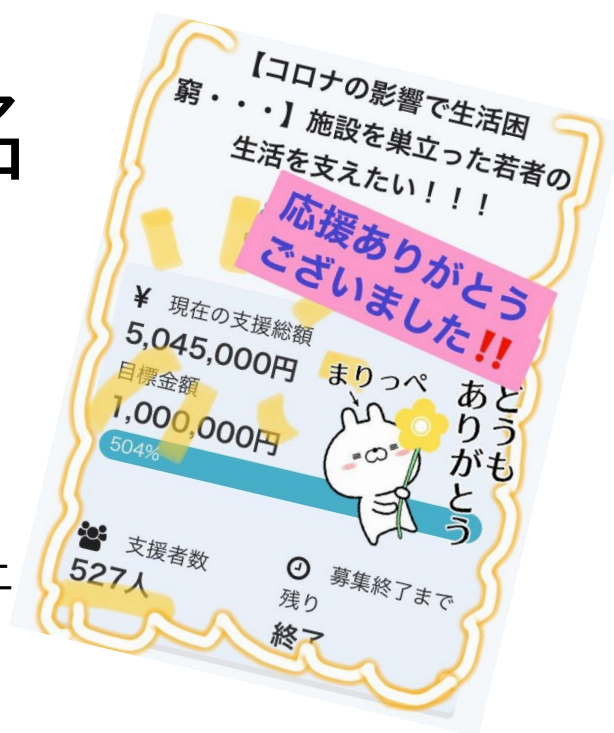


2-5万円の基金を給付

138名

食料を送付

65名以上





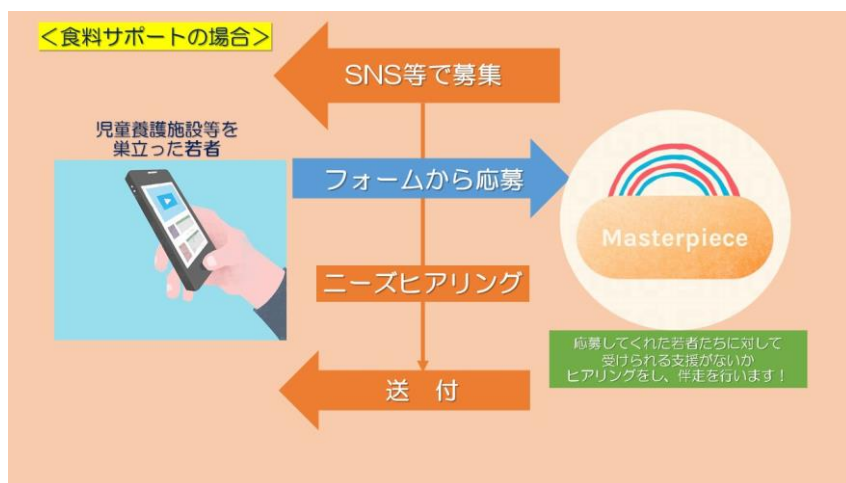
## 2-5万円の基金を給付

# 138名



## 食料を送付

# 65名以上(引き続き送付中)



# ■プロジェクト概要

4月中旬

## ■あるユースの「声」

Masterpieceに寄せられたある若者からの相談。緊急小口資金や生活保護が受けられなかった。「国から死ねと言われている気持ちです」と。その言葉で代表まりっぺが居ても立っても居られず、クラウドファンディングの準備に取り掛かる。

4月下旬

## ■15万人に読まれたnote記事

### 「国から死ねと言われています」

若者の体験談をまとめたものをnote記事にしたところ、拡散に拡散が重ねられ、1週間で10万人を超える方々に読んでいただきました。著名人の方にもシェアしていただき、爆発的に拡散されました。

5月9日

## ■クラウドファンディング開始

GW明けにクラウドファンディングを開始！開始直後から支援の波が止まらず、開始8時間で第一目標金額を達成しました。

### ■第1ゴール100万円達成(開始8時間)

### ■200万達成(開始一日半)

### ■300万達成(5月21日)

### ■400万達成(6月10日)

第1次  
給付

若者たちへの  
給付も  
同時進行！

第2次  
給付

6月21日

## ■最終日に504%を達成し終了！



# ■プロジェクト概要

## 「国から死ねと 言われている気持ちです」

「シフトカットされて収入減  
です、助けてください」

「内定が取り消されてしまし  
ました・・・」

「全然ごはんを食べてい  
ません・・・」



そんな若者からの新規相談が増えています。Masterpieceでは食料サポートと、行政の資源や使えるような情報の紹介を行っています。その中で、私がこのクラウドファンディングを行うにいたったある若者の声がありました。

これは、「健康で文化的な最低限度の生活」でしょうか？  
大学進学は贅沢なのでしょうか？  
施設を巣立った若者が進学する権利は無いのでしょうか？

### 「緊急小口資金、 生活保護も断られ てしまいました」

### 「お金がなくて、施 設出身で、頼る人が いない若者は大学 を辞めて働けばい いじゃないか」

この若者は、緊急小口資金は未成年で難しい(時間がかかる(緊急なのに?!))と言われ、そして学生であるからという理由で生活保護を断られてしまったそうです。

それが今の日本社会のメッセージだと思うと、私は悔しくて涙がこみ上げてきました・・・。

### 「一日、一食。シャワ ーの節約のため、濡 れタオルで身体を 拭くだけです。」



# ■プロジェクト概要

Masterpiece代表

## まりっぺ(菊池)

●2010ー  
都内の児童養護施設で住込み勤務

●2015ー  
施設を巣立った若者たちと繋がりをもち始める

●2017ー  
カナダのアドボカシーオフィス訪問

Masterpieceを法人化

その傍ら児童相談所で非常勤職員として従事

## まりっぺ

菊池まりか（33）です。

児童養護施設の元職員です。

今はMasterpiece代表として、

若者サポートをしています♪

若者たちからはまりっぺと呼ばれています。



## 衝撃を受けた施設職員時代

「え？まさか、そんな・・・」

施設職員時代によく耳に入ってきたのは、施設を巣立った後に困難にぶつかっていく子たちについてのことでした。18歳であまり後ろ盾の無いまま、一人立ちしていく彼らの前に、この社会の荒波が容赦なく押し寄せてきます。

金銭的問題、人間関係の悩み、実親からの金銭的搾取、孤立・・・  
見た目では分からない、一般的に理解され辛い、彼らの繊細な思い。  
虐待などによる過去の傷を抱えたまま、自己の存在について思い悩み続ける若者も少なくありません。様々な困難が彼らに立ちまわります。

それなのに、

## 施設を巣立った後のサポートが少なすぎる！！

そう、感じたのは、働き始めて2年目くらいの頃でした。もっと、段階的に社会に出るためのサポートが必要、そして倒れた時に戻ってこれる場所が必要、そう思いました。そして、いつか、彼らが準備するためのシェアハウスをしたい、そう決心したのは3年目の頃でした。

そして、現在はMasterpieceでシェアハウスを行っています。「住」と「食」を軸としたサポート活動をしています。



シェアハウス



フードバンク



発信活動

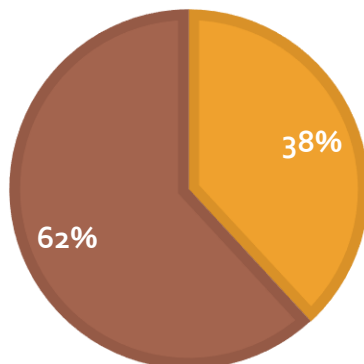


# ■若者からの応募状況

## ■性別

応募者の中では女性の方が多い傾向でした。SNSで情報をキャッチしやすいとか、紹介で繋がしやすい、女性専門の支援団体経由の紹介などの背景があると考えられます。

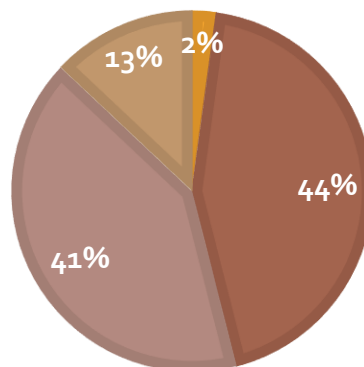
■ 男 ■ 女



## ■年代

児童福祉法では児童は18歳未満。民法では成人は20歳から(令和2年現在)。児童福祉法が守ってくれにくく、契約行為もできないこの期間が「2年の壁」と言われています。全体としても8割以上が20代前半でした。

■ 17歳以下 ■ 18～20歳  
■ 21～24歳 ■ 25～29歳



自立したての18～20歳はみんな大変と言われるわ。

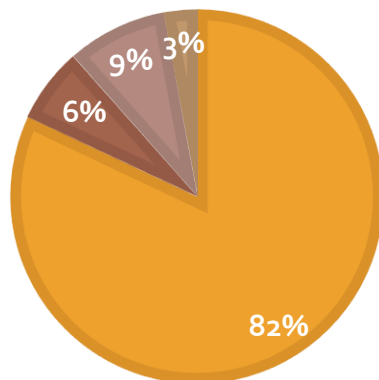


**半数近くが20歳以下**

## ■社会的養護の利用背景

児童養護施設が8割と多かったです。里親家庭でも里親宅を頼ることができないケースもあるという声や、自立援助ホームやシェルターも対象としたことで助かったという声も印象的でした。

■ 児童養護施設 ■ 里親家庭  
■ 自立援助ホーム ■ シェルター

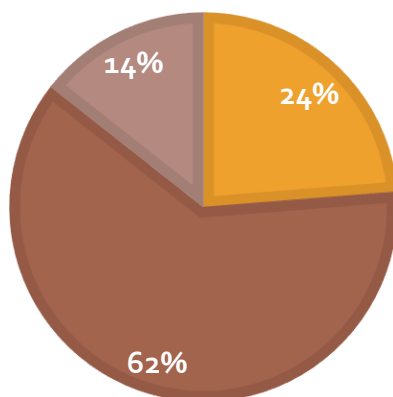


# ■若者からの応募状況

## ■仕事の現状

今回コロナの影響で仕事を失ったのは4人に1人。半分以上を占める6割が仕事減って収入減となってしまうという心苦しい現状です。

■仕事を失った ■仕事減った ■その他



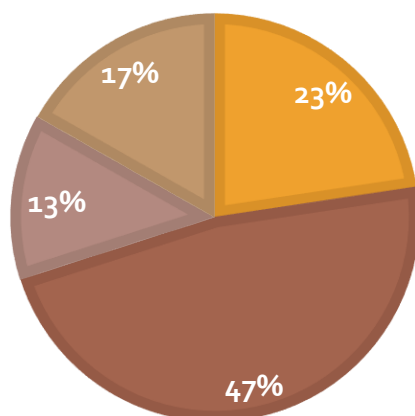
コロナの影響で...

応募者の  
4人に1人が  
「仕事を失った」

## ■最終学歴

今回応募者の中では中卒の若者の割合が予想より多かったことに驚きました。現在、社会的養護利用者はほぼ高校進学をしています。まれに中卒で卒園する若者もいます。今回の応募状況から、そういった若者の生活状況の厳しさが窺えます。

■中卒 ■高卒 ■大・専卒 ■在学中



この中卒の若者の4割は施設と連絡が途絶えてしまっているわ。



応募者の  
4人に1人が  
中卒で就労

北海道、宮城県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、埼玉県、静岡県、滋賀県、大阪府、奈良県、京都府、兵庫県、山口県、鳥取県、愛知県、佐賀県、熊本県、鹿児島県、福岡県、沖縄県

**21都道府県**からの応募がありました



# ■若者からの声:今の気持ち

## 今の気持ち

施設にいる時、こういった現状になることの想定してこなかったの、すごく不安です。  
—20歳男性

苦しいです。  
働いていても、仕事はあっても、生活は苦しいです。  
—19歳男性

困った時に頼れる相手がいなくてキツイ。  
—20歳女性

世も末。  
—21歳女性

退所後の成人している人も支援してくれると知り、少し安心することができました。  
—21歳女性

施設を出た後、いきなり全部自分でやるのは難しいです。

親はいないし、施設の先生たちは優しいけど忙しいのを知ってるから自分から頼れないし、自立援助ホームからは退所したら関係ないと言われ頼れません。

なので今回の基金で「アフターケアはまぼろしではないのだ」と思いました。  
ありがとうございます。  
—20歳女性



# ■若者からの声：今の気持ち



家をいつ失ってもおかしくない状況。失ったら家を借りる財力がないし、保証人も用意できないので、本当に生活が苦しいです。  
—20歳男性

**先が見えない**です。  
—26歳男性

会社を辞めたくても稼ぎが無くなると困ったり、引越しをしたくても引越しするお金が無いなどお金がない事で自然と選択肢が限られてしまいます。  
—23歳女性

いざ、経済的に厳しくなった時に**親族には頼れない**しんどさ。  
—22歳女性

施設や養護学校出身者への**偏見**、うつ病は甘えだろうという**誤認**、これらが蔓延して世の中を変えていきたい。  
—22歳男性

児童養護施設出身者の支援ばかりが多いのか。母子生活支援施設も退所した後はそんなに条件変わらないし、むしろ親いてもめんどくさいし大変な無理難題ばかり押し付けてくるのに。  
—20歳女性



# ■若者からの声：行政支援に求めること

## 行政支援に求めること

いきなり自立はできないから  
難しいこととか少しは支えてほ  
しいです。

—20歳女性

マスクじゃなくて給付  
金を早く届けて欲しい。

—20歳男性

一回きりの給付金で  
は心許ない。

—21歳女性

外国籍の課題等で必要な  
支援を受けられない学生が  
いるので条件等がない支  
援があるといい。

—20歳男性

未成年の場合で、親と縁が切  
れていると機関が使えない事  
が多い。虐待から逃げた人た  
ちは頼れる人が限られている  
ため申し込みすら出来ないと  
いうことがあったりするから  
未成年でもいろいろ出来るよ  
うにしてほしい。

—18歳女性

施設出身で且つ養護学校  
出身、そしてうつ病も抱え  
ています。偏見を無くして  
ほしい。

—22歳男性

# ■若者からの声：行政支援に求めること

事業者だけじゃなくて、個人の就労者にも給付金がほしいです。学生ばかりの支援が目立ち、ぼくたちは見落とされています。

—20歳男性

継続的な支援があればいいのと思います。

—21歳男性

支援なのかはわからないが、虐待を受けている子供たちに手を差し伸べて欲しい(少しでもお金をそっちに回してほしい)。

—24歳男性

メンタルケアが必要な方に対してのサポート。

—27歳女性

施設出身者の支援も、国の支援も学生ばかりに集中していて、施設出身者の働いている人への支援が少ないです。

—19歳男性





# ■若者からの声：行政支援に求めること

役所での手続き等で**両親等**がいないと不便なことが多い。

—20歳男性

もう少し緊急時の支援対応スピードを上げてほしい。**実生活に支援が間に合わない。**

—24歳男性

政府との連携を適切に行ってほしい。**国が使えると言ったものも、役所では断られたことがあるから。**

—21歳女性

色々な給付金について国民にわかりやすく、色々な方法で情報を拡散してほしいです。

—20歳女性

例外がなくなればいいのにとおもいます。**多様化**してるケースに対応し切れていない。

—20歳男性

困ったことをいつでも相談できる**24時間対応**のネット相談など。

—22歳女性

Request



# ■若者からの声：行政支援に求めること

施設出身者の家賃補助がほしい

—23歳男性

事務手続きが多すぎる。もっと簡略して申請、審査が出来るようにはならないのか。

—23歳男性

若者の給付に力を入れて、弱い立場にある若者を差別することなく助けて欲しい。

—23歳女性

給付金額の底上げをしてほしい。

—18歳男性

行政をもっと身近に感じる事が出来れば、生活困窮者が減ると思います。多様性を求められているからこそ、より簡潔に制度を理解できる仕組みや、教育が必要だと思っています。

—21歳男性

# ■クラファンチーム・ユーススタッフ

## ■マーケティング担当

企画、広報、更新。  
取材対応などを行って  
くれました！  
SNS(Twitter)発信を  
得意としています！



### むっちゃん

里親家庭で10年間過ごした後、4年間  
児童養護施設で過ごす。卒園後就職。現  
在は就労しながら通信学生。

## ■動画クリエイター

動画編集をしてくれまし  
た！動画編集スキルは  
色んな所でも使えますし、  
これからの時代のスキル  
としてとてもニーズが  
あると感じました！

### なべちゃん

鹿児島県の児童養護施設を巣立つ。将  
来は、九州にアフターケア団体を作るた  
め研究中。



### かいとくん

都内の児童養護施設を巣立つ。就労し  
ながら学生をしている。生産Fuse」代  
表。カレーをこよなく愛する。



 Youtube

Masterpiece まりっぺ 





まりっぺ  
×  
むっちゃん

## クラウドファンディングを終えて



**ま** クラウドファンディングの44日チャレンジをひとまず終えましたね！500万円まで達成すると思いませんか？

**む** 2日で行くと思いましたが！友人も協力してくれて嬉しかった。

なかなか知られることのないこの現状について共感してくださった人が多かったということでしょうかね。

「やばいな！」と思ってくれた方がたくさんいたということだと思います。

でも、いつかは「支援される」という言葉が無くなれば良いなと思いました。支援ではなく安定した生活が当たり前の権利になると良いなと思いました。

本来は行政がやっていかなきゃいけないところですね。

マスクのお金はそういうところに充ててほしかったです。

そうですね…。まだ国の10万円が入っていない人もいるだろうから本当に心もとないですね…。

民間の方が早いということに焦りを感じてほしいです。行政は意思決定に時間がかかってしまうのがどうしても…。行政の方は「当事者性」をもってほしいなと思います。

窓口では支援できない理由ばかり言われてしまう時もありますよね。

自分がその状況に陥ってみたらきっとわかると思います。

今回のクラファンも、自分が辛い体験したことがある方の支援も多かったと思います。

むっちゃんは施設を巣立った経験者として、どんなサポートが必要だと思いますか？

個人的には仕事のサポートの必要性を感じます。お金の支援はあくまで一時的な物なので、その後のサポートも絶対必要です。

そうですね。今後の若者たちが生活を落ち着けられるように引き続き繋がっていきます！

今回皆さんがしてくださったのは、**若者たちへの投資**だと思います。自分を支えてくれる人がいるということで希望をもってくれた若者も多いです。

「この取り組み自体に救われた」という言葉に泣きそうになりました。

私自身も貧乏学生していて周りにたくさん助けられました。その経験があって今に繋がっています。若い時に経験したことは、良くも悪くも今後の人生に関わってきます。コロナは大変だけど、今回のことで希望をもつ若者が増えて、生きる力となってほしいです。

私たちは、皆さんのしてくださったご支援が、きっとその額の何倍、何十倍もの価値になると信じています！



…まりっぺ

児童養護施設元職員、Masterpiece代表として



…むっちゃん

児童養護施設、里親家庭生活経験合計14年間社会的養護を経験した者として

# おわりに

この度は、Masterpiece若者緊急基金クラウドファンディングへの寛大なご支援を本当にありがとうございます！

以前から緊急基金の必要性は感じていましたが、今回のコロナ渦の影響を機会についに基金作りへ踏み出すことになりました。

児童養護施設や里親家庭などの社会的養護を巣立った若者たちは社会の荒波の中で本当に日々頑張っています。

ある当事者の方は言っていました。

「みんなにとっては普通の道でも、私にとってぬかるみを歩いているようなもの。普通に歩くことさえとても大変なことなんです」と。

若くして自立する人なんてたくさんいるんだから！という人もたまにいらっしますが、ぜひ想像していただきたいのです。

“人生の基盤である親から虐待などのマイナス経験を受けること”が、どれほどのものであるのか。

“親を頼れない”ということは、ゼロからのスタートではありません。深い傷を負っている若者にとっては深い深いマイナスからのスタートです。時には、あまりに傷が深すぎてそこから先に踏み出すことが困難な若者もいます。

もちろん、全員ではありません。しかし、そういった若者たちも多くいることを知っていただきたいのです。

今回はゴールではありません。ここから始まりだと思っています。若者たちにとってはこれからの立て直しが本当に大切になっていきます。

引き続き社会的養護にご関心を持っていただき、若者たちを応援していただけたらとても嬉しいです！

2020年7月  
一般社団法人 Masterpiece  
代表理事 まりっぺ



# Contents

## ■新聞掲載

共同通信社を通じて複数の新聞でMasterpieceの活動について、また今回の基金で出会った若者の現状について紹介されました。

### 住民登録は虐待を受けた親元に 車中泊、給付金諦め

児童養護施設などで育った若者が、新型コロナウイルスの影響で経済的に追い詰められている。背景に利用者本位になっていない支援制度の課題も垣間見える。支援団体は「早急に実情に応じた対策を取るべきだ」と訴えている。

「学生時代に働いて買った中古車で寝泊まりしている。こう話すのは静岡県的女性介護士(29)。車中泊を始めたのは、住まい代わりインターネットカフェが

コロナの影響で営業自粛したことがきっかけだった。父親から「死ぬ」と言われ、暴力を受けて育ち、高校を年で一時保護された。18歳を前に児童相談所から「支援を打ち切る」と言われ、父のいる家に戻された。NPO法人の施設に1年ほど身を寄せたが、職員の嫌がらせを受けて離れた。貸与型奨学金を受け、短大で福祉を学んだ。現在は介護施設に非正規で働くが給料は低く、奨学金返済な

どで経済的に厳しい。このまま車中泊ができるか不安も膨らむ。

特別定額給付金に期待していたが、住民登録は実家の住所のまま。家族に聞かれるくらいなら」と諦めているという。

国も対策に乗り出している。12日成立した第2次補正予算に、施設出身者を対象に生活費などを貸し付け、5年間働き続ければ返還が免除される自立支援資金制度の増額を盛り込んだ。だが施設出身者には非正規雇用で働く人も多く、失業した場合を懸念し申請をためらう声も根強い。

一般社団法人「Masterpiece」は5月9日からクラウドファンディングを開始。支援を求める人へ最大5万円を配り、食料も送る。15日現在で約450万円集め、6月21日まで寄付を募っている。代表のまりっぺさんは「親に頼れない人は制度の隙間に落ちやすい。行政は実情を理解し、丁寧な支援をしてほしい」と強調した。



養護施設出身者らへの食料を準備する一般社団法人「Masterpiece」＝5月、千葉県市川市（同法人提供）

## ■note 紹介

クラウドファンディングを始めるに至ったある若者の現状についてまとめさせていただいたものです。

著名人のシェアもあり、多くの人に読んでいただきました。この記事を読んでご支援くださった方もたくさんいらっしゃいます。

### 発信活動報告

15万人に  
読まれました

コロナの影響で生活が苦しくなったある児童養護施設出身者の現状



## ■Masterpiece

引き続きの応援を  
よろしくお願いたします！

### 【ゆうちょ銀行】

店名:〇九八(ゼロキユウハチ) 記号:10970 番号:30859771  
口座名:シャ)マスターピース

### 【他銀行よりゆうちょへ】

店名:〇九八 / 店番:098 種別:普通 / 口座番号:3085977  
口座名:シャ)マスターピース







2020年7月 発行  
一般社団法人 Masterpiece©

Masterpiece

第2回

若者  
緊急  
基金

プロジェクト

報 告 書

# 目次

02	プロジェクトの背景
03	プロジェクトの概要
04	プロジェクトの成果
05	サポート対象となった若者たち
07	コロナ禍での若者たちへの影響
09	若者たちの公的支援へのアクセス
11	サポートに対する若者たちの声
13	インタビュー①
15	インタビュー②
17	プロジェクトチーム
19	必要とされる社会のサポート
21	Masterpieceの活動と今後のご支援のお願い
22	Masterpiece代表よりご挨拶



# プロジェクトの 背景

新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態になり、私たち一人ひとは、日々の生活に生じている大小様々な影響を感じながら、コロナ禍を生きています。そんな中、虐待など様々な理由によって、親を頼れず、児童養護施設や里親家庭などで育った若者たちに、コロナ禍は孤独な戦いを強めています。

保護者がいなかったり、親から適切な養育を受けられない子どもたちを、施設や里親家庭などで社会が育てる仕組みを、「社会的養護」といいます。日本には、社会的養護下で育つ子どもたちが、約45,000人います。そして、彼ら・彼女らの多くは、18歳になると、施設や里親家庭から卒業し、一人立ちすることを求められます。親などの後ろ盾が十分でない中で、若者たちが社会に出ていく大変さを、想像できるでしょうか。

虐待などの過去から受けた心の傷を抱えたり、頼れる実家がない中で、自分で生活費や学費を工面したり、慣れない職場などでの人間関係を作っていくと、心理的にも経済的にも過酷な状況を、多くの若者が生き抜いています。そして、そこに今はコロナが追い打ちをかけています。彼らの多くは言います。「気軽に頼れる人がいない。親が頼れる人が羨ましい」と。

Masterpieceは、社会的養護を巣立った若者たちに、シェアハウスや食料支援など、「住」と「食」を軸としたサポート活動を行っています。1回目の緊急事態宣言が発令された2020年4月、ある若者からMasterpieceに、こんな声が寄せられました。

## 「国から死ねと言われている気持ちです」

緊急小口資金や生活保護も受けられず八方塞がり状態。

「国が助けてくれないなら自分たちでどうにかするしかない！」と居ても立っても居られず、若者緊急基金を立ち上げ、2020年5月にクラウドファンディングを実施しました。

1ヵ月半の間に、527名の方々から計5,045,000円をご寄付をいただき、138名の若者たちへの給付（2-5万円）と65名への食料支援を実施することができました。

しかし、コロナ禍は続きます。この一回の緊急支援だけで、若者たちの状況が解決するわけではないことは痛感しつつ、Masterpieceは、継続的な食料送付とメルマガ等で、若者たちとのつながりを維持してきました。彼ら・彼女らにとって、いざという時のための存在のひとつでありたいと願って……。

そして、2021年1月、2回目の緊急事態宣言が発令されました。飲食店で働く若者を中心に、再び深刻な状況が起りうることを想定し、若者たちに、ヒアリングを実施したところ、

## 「前回よりひどい」

という声に衝撃を受けました。

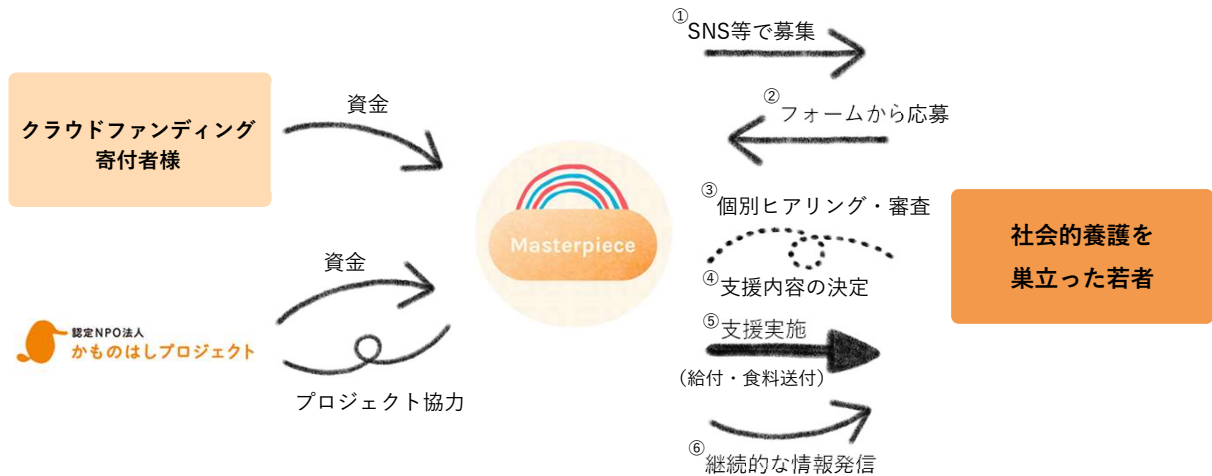
第一回目の緊急事態宣言時は厳しい中でしたが、特別定額給付金など支援策がいくつかありました。それに比べ、今回は給付金等の公的支援が目立ちません。そんな中、アルバイトなどの非正規雇用で働く若者たちの収入はただ減り、生活が厳しくなることは明らかでした。

## 仕送りもなければ、避難できる実家もない。

ギリギリの生活をしてきた若者にとって、少しの減収が大きな打撃となってしまうのでは。

こうして、第二回目の若者緊急基金を実施することにしました。

# プロジェクトの 概要



2021年2月6日～3月7日にてクラウドファンディングを実施しました。シンガーソングライターの川嶋あいさん、女優のサヘル・ローズさん、(株)マザーハウス代表取締役副社長 山崎大祐さんから、応援メッセージをいただきました。

また、本プロジェクトは、認定NPO法人かものはしプロジェクトと共同で実施しました。かものはしプロジェクトからは、資金の提供と、プロジェクト実施のサポートをしていただきました。

2021年1月末～3月初旬の間、社会的養護を巣立った若者向けに、SNS等で、若者緊急基金の募集を実施いたしました。フォームからご応募いただいた若者一人ひとりに対し、電話等でヒアリングを実施しました。現在の状況などをお聞きし、公的支援の情報などを提供し、また、ヒアリング結果を踏まえて、支援内容（給付金額含む）を決定いたしました。Masterpieceより、2021年2～3月の間に、給付支援、および食料支援希望者に対する食料の発送を順次行っております。



プロジェクトの

# 成果

## クラウドファンディングのご報告

ご支援者様の数

**243名**

第1目標に設定した120万円を開始2日で達成することができ、最終的には、340万円を達成することができました。

たくさんの方々にご支援をいただきましたこと、心よりお礼を申し上げます。

集まったご支援

**3,400,000円**

クラウドファンディングで集まったご支援と、認定NPO法人かものはしプロジェクトから提供のあった100万円の計440万円で、本プロジェクトを実施いたしました。

## サポート実施のご報告

応募いただいた若者の数

**114名**

コロナ禍で厳しい生活を余儀なくされている若者たちがたくさんいる中、第2回若者緊急基金は、「社会的養護出身の29歳以下の若者で、2021年1月の緊急事態宣言を受けて減収された方」を対象にサポートを行いました。

サポートを実施させていただいた  
若者の数

**109名**

うち、103名に2万～5万円の給付を実施  
(状況に応じて給付額を調整)  
79名に食料サポートを実施 (継続送付中)

一人ひとりとの個別ヒアリングにて把握した緊急度に応じて、給付金の額を決定しています。

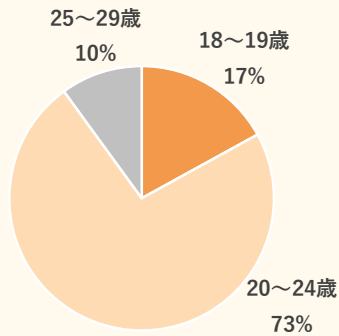
また、特に緊急性が高い方数名には、Masterpieceが運営するシェアハウス・シェルター等の場所を提供させていただきました。



# サポート対象となった若者たち

第2回若者緊急基金でサポートをさせていただいた109名の若者たちについて、応募時にご回答いただいた内容をもとにご紹介いたします。

## 年代



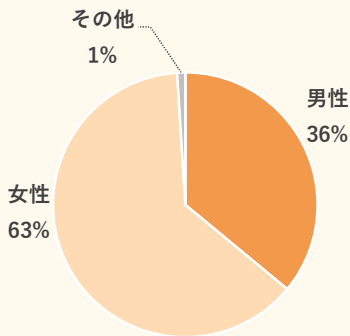
(回答者数：109)

## 年代

10代後半から20代前半（18～24歳）が9割を占めています。自立してからまもない若者たちが、より大変な状況にあることがうかがえます。

また、児童福祉法では、18歳未満が児童と定義されるため、18歳で自立が求められるのに対して、民法では20歳からが成人（2021年現在）。そのため、18-19歳の若者は、携帯電話や住居の賃貸など、様々な契約行為を行いつらく、「2年の壁」と言われています。

## 性別

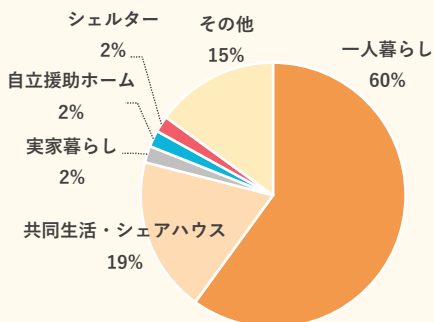


(回答者数：109)

## 性別

第1回若者緊急基金と同様、女性の方が多く結果となりました。女性の方が、SNSに積極的で情報をキャッチしやすい傾向にある、また、女性支援を行う団体経由での紹介などにより、つながりやすい、という理由が考えられます。

## 住まいの状況



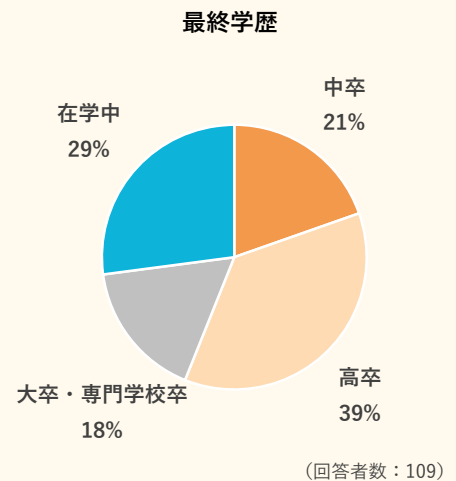
(回答者数：109)

## 住まいの状況

6割の方が、一人暮らしをされています。コロナ禍では、家で過ごすことが多くなる中、経済的のみならず、心理的な孤独感という課題が懸念されます。

## 学歴

現在は、社会的養護経験者のほとんどが高校進学をしている中、本基金でサポートを受けた若者においては、2割が中学卒業後進学せず（もしくは、進学後高校中退）でした。第1回若者緊急基金の際も同様の傾向があり、社会的養護を巣立った若者の中でも、中学卒業後で就労する人たちの生活状況がより厳しい可能性が示唆されます。

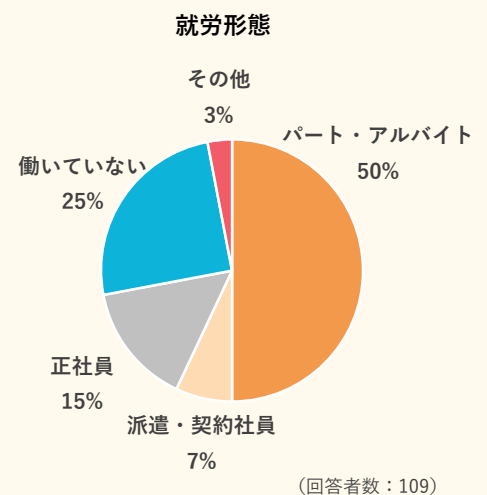


## 就労状況

現在の就労状況をお聞きしたところ、失業中・休業中の方が2割強を占めていることがわかりました。

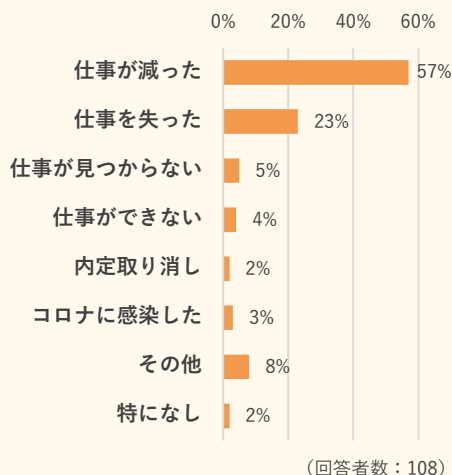
残りの75%が、学生を含め、現在なんらかのお仕事をされている方々ですが、そのうち、77%がパート・アルバイトや派遣、契約社員といった非正規雇用での就労です。現在の日本の労働者の非正規割合が4割弱であることを鑑みると、サポート対象となった若者たちの非正規割合が相当高く、不安定な雇用状況であることがわかります。

なお、働いている方の中から学生を除いた場合でも、非正規雇用の方は64%と、非常に高い割合です。



# コロナ禍での若者たちへの影響

## ① 緊急事態宣言の影響



2021年1月の緊急事態宣言の影響でご自身に当てはまることをすべて選択していただき、108名のうち各項目を選択した人の割合を%で表示

## ① 緊急事態宣言の影響

2021年1月の緊急事態宣言で、サポートを受けた若者たちのうち「4人に1人が仕事を失った」「6割の方たちの仕事が減った」ということがわかりました。

非正規雇用など不安定な就労形態でお仕事をしている若者が多い中、彼ら・彼女らにとって緊急事態宣言は追い打ちをかけるような大きな打撃となってしまいました。

### 緊急事態宣言の影響について、若者たちの声

“新型コロナに感染して、失業しました”  
—24歳 男性

“シフトが週2時間のみになってしまい、他のアルバイトを”  
探しても、私が専門学校に通っているので時間帯が厳しく  
収入が少なくて困っています。 —21歳 女性

“コロナで前職を失い支払いが追いつかず”  
殆どが滞納状態にあります。 —22歳 男性

“アルバイトがカラオケで2月のシフトを全て削ら”  
れてしまい、収入がありません —22歳 女性

“バイト先の売上の状態も厳しく、今回の緊急事態宣言発令前もシフ”  
トにはあまり入れず貯金も厳しい状況になっています。父親は他界、  
母親とは疎遠になっているため仕送りもありません。 —22歳 男性

## ② 現在の困りごと

現在の困りごとについての質問では、9割の方々が「生活費が不足している」と回答、ついで、「食事を十分に取れていない」「健康管理」に困っている、とそれぞれ3割の方が回答されています。若者たちの声からも、食費を切り詰めたり、孤独と戦いながら、なんとか生活をしているという苦しい様子が伝わってきました。



## 現在の困りごとについて、若者たちの声

“毎日1食カップ麺で食費を減らして生活しています。”

—19歳 女性

“コロナ禍で先の見通せない現状、児童福祉施設等を出た人達の経済的な不安は積もるばかり。私は就活生として現在4社に応募しているが、内定を勝ち取る保証もないためかなり不安。”

—25歳 男性

“緊急事態宣言が発令されてから仕事がなくなって、親との関係も悪化したのでシェアハウスに引っ越した。”

—21歳 女性

“時々一人が孤独すぎることがあります。”

—28歳 女性

“ちょうど住居の契約更新もきて更新料もかかって大変です。”

—20歳 男性

“生きてるだけで精一杯。明日ご飯が食べられるかも保証されていない。寒くても暖房が付けられない。”

—21歳 女性

“コロナのせいで少ない友人にも会えず孤独でいるから辛い”

—23歳 男性

“なんで虐待を受けただけなのに、親に頼れないだけなのに、”  
今まで精一杯頑張ってきたのに、こんなにも疎外感を感じたり  
制度が整っていないで困ったりしちゃうんでしょう。—18歳 女性

“負けない、絶対生きる”

—20歳 女性

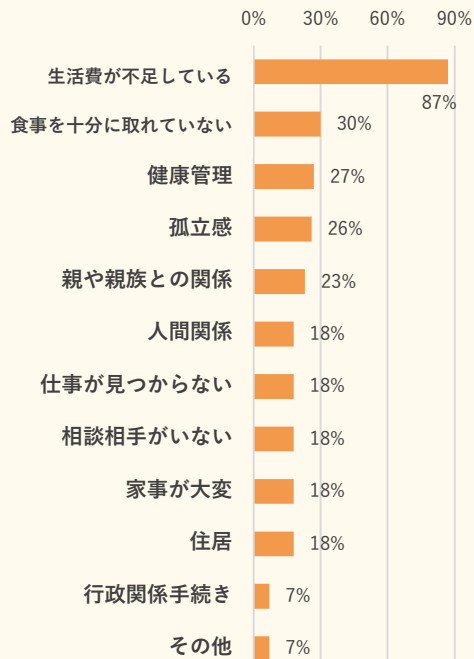
“他者との接触を避け、友人との時間も作れず鬱屈としている。”  
仕事も厳しい状態が続くせいかノルマが酷くなっており、精神面での限界が近いと感じる日が増えている。 —24歳 男性

“誰からの支援もないので生活費等が大変です。”

—23歳 女性

“シングルマザーなので子供を育てるのでやっとなで支払いに回すお金さえありません。親子関係もあまり上手くいってないので実家にも戻れないですし、私も施設に入れられてほんとに寂しくて辛い思いをしたので同じ事をしたくないのですが生活が苦しすぎてこの先きちんと子供を育てて行けるか心配です。 —22歳 女性

## ② 現在の困りごと

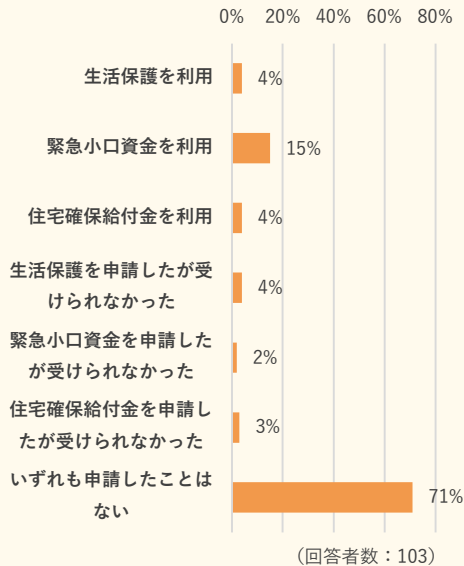


(回答者数：106)

現在の生活で困っていることをすべて選択していただき、106名のうち各項目を選択した人の割合を%で表示

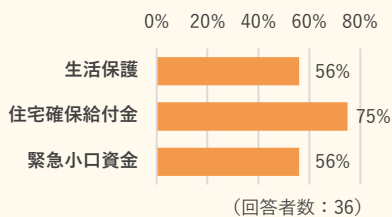
# 若者たちの公的支援へのアクセス

## ① 今回生活が苦しくなって 利用した公的支援



今回生活が苦しくなって利用したものをすべて選択していただき、103名のうち各項目を選択した人の割合を%で表示

## ② 第2回若者緊急基金への応募時点で 「以下の公的支援について知らなかった」と 回答した方の割合



各制度の利用状況について質問し、「この公的支援について知らなかった」と回答した人の割合を%で表示

コロナ禍で厳しい生活を強いられている人々に対して、（十分か否かは別として）様々な公的支援があります。深刻な状況にある社会的養護を巣立った若者たちは、これらの支援を利用できているのでしょうか。

若者たちに、本基金への応募時の緊急小口資金・住宅確保給付金・生活保護等の制度の活用状況を聞いてみました。その結果、7割の方々が、いずれの制度にも申請をしたことがないことがわかりました（表①）。

さらに、本支援実施後の事後アンケートにて、これらの制度について知らなかった方々が過半数を超えることがわかり（表②）、**必要な情報が必要な人に届いていない**という現状が明らかになりました。

また、制度について知っていたが、申請しなかった方々や、申請したが受けられなかった方たちの理由などから、

- 申請に関する情報や書類が複雑で、申請すること自体のハードルが高い
- 地方在住で生活や仕事のため車を手放すことはできないといった事情や、書類上は親の扶養に入っているなど、制度上の条件から見ると、支援不要だと判断されてしまう
- 親を頼れない事情があるにも関わらず、学生であるという理由で、制度によっては申請ができない
- 貸付の場合、返済への不安があり、申請を躊躇する
- 行政窓口での威圧感のある態度や、複雑な事情や経験を理解してもらえないことによる心理的な負担が大きい

といった、社会的養護経験者（のみではありませんが）が公的支援を活用する上での課題がみえてきました。

## 公的支援について、若者たちの声

“親の収入に関係なく、利用できる奨学金がほしい。”

親からの援助は一切受けられないため。

—18歳 女性

“上から目線と決めつけて話さないでほしい。”

—25歳 女性

“行政支援があったおかげで大学に進学することが出来たので大変感謝 ”

しています。そのうえで、今の行政サービスの申請主義的なあり方には少し問題があると感じます。日本の教育（高校まで）制度では社会保障に関して学ぶ機会がとてもなく、多くの方がリテラシー不足で必要な情報にたどり着けません。または情報を知っていても制度を必要としている人々の多くは申請する余裕がないかもしれません。

「知らない本人が悪い」として自己責任論者になってしまっは人々の間に分断が生まれ悲しい社会になってしまいます。 —22歳 男性

“誰もが支援を受けられるような間口が広く ”

わかりやすい施策を願っています。 —23歳 女性

“貸付が18歳で借りれなくてほんとに困ってる時に ”

使えるようになってほしい —18歳 男性

“もうちょっと威圧感のない話し方で対応してほしいです。”

—19歳 女性

“生活をするのに必死になっても助けてとなかなか声を上げることが ”

できない現状があり、家を借りるにも大学に入学するにも保証人が必要で、両親がいない人はとても不利な社会だと感じていて、社会的養護の人でも当たり前前の生活をできるように法整備をしてほしいと強く願っています。

—23歳 男性

“複数の支援制度をまとめて、給付条件を緩和して欲しい。生活は ”

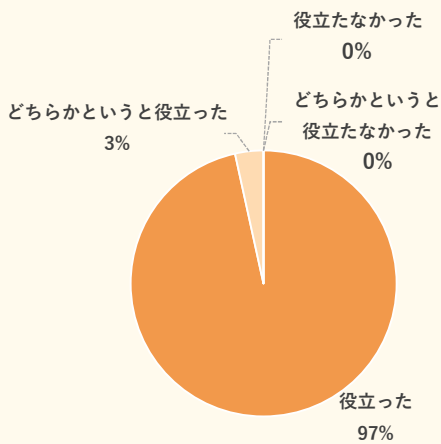
苦しいのに、条件が1項目満たしていないとか複雑な場合が多い。

—21歳 男性



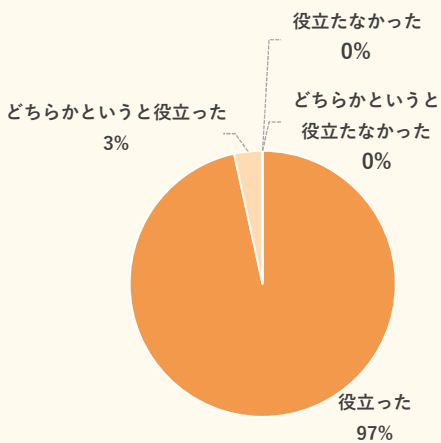
# サポートに対する若者たちの声

## ① 今回の給付金は役に立ちましたか？



(回答者数：36)

## ② 今回の食料送付は役に立ちましたか？



(回答者数：29)



食料送付の様子

本基金でサポートを行った109名に、支援実施後のアンケート調査をご依頼し、36名の方々にご回答をいただきました。アンケートの結果をもとに、今回のサポートに対して若者たちが感じたことをお伝えしていきます。

給付金（①）、食料送付（②）は、ほとんどの方が「役に立った」と感じられたことがわかりました。個別ヒアリング（③）については、話ができることや寄り添ってくれることへの感謝の声が多く、物理的サポートだけではなく、孤独感をやわらげるサポートの必要性を感じました。一方、継続的な生活の回復のためには、公的支援に関する情報提供も、このヒアリングの重要な要素であると私たちは考えていますが、それに関する声は少なく、今後のよりよいサポートにむけて、検討を進めていきたいです。

## ① 給付金の支援について

“体調不良が続き休職していたのでまとまった給料が入らなかったためとても助かりました。”  
-24歳 男性

“学費の滞納分を少し減らすことができた。”  
-23歳 女性

“困っていたのですぐにサポートしていただいてとても助かった。”  
-23歳 女性

“ほんとに色々大変で生計維持が困難だったから”  
-19歳 男性

“少しでも食べれるものが増えた”  
-23歳 男性

“いつも生活費がギリギリなので本当に助かった。”  
ただこれからも不安が続く  
-23歳 女性

“生活費が出来たため。それに伴い精神的余裕が生まれたため。”  
-24歳 男性

“給付金のお陰で経済的にも精神的にも少し余裕ができました”  
-23歳 女性

## ② 食料送付の支援について

“食品なども安さを優先してあまりバランスがとれていなかったから”  
-21歳 女性

“生活する基盤でいちばん大切な部分を支えてもらっているから。”  
-25歳 男性

“生活するためには食費を削るしかないので、本当に助かった”  
-21歳 女性

“ご飯食べれる幸せ。”  
-19歳 男性

“食費が浮くので安心できた”  
-27歳 女性

### ③ 個別ヒアリングについて

“話をすることで孤独感が消えた気がします。悩んだらいつでも連絡”  
しておいでの一言が嬉しかったです。ありがとうございます。-27歳 女性

“心配してくれる人がいないので本当に嬉しかったです。”-21歳 男性

“色々な支援サポートがある事など教えてくれたり、寄り添ってくれた。”  
-19歳 女性

“心が軽くなった。” “話ができる人がいる安心感”  
-20歳 女性 -19歳 男性

“何でも気軽に相談していいんだなと思った” -21歳 女性

“ずっと欲しかった、なんでも話せて、味方で”  
いてくれて精神的にも助かりました -20歳 女性

“寄り添ってくれる人がいるという安心感と、応援に応えようと”  
頑張れる気持ちになった -22歳 男性

“少し話しにくかった” “電話が苦手だから。”  
-24歳 女性 -20歳 女性

### 支援全体について

“今回は非常に助かりました。いざと言う時に頼っていい場所があることは”  
精神的な支えとなるので、私自身含め今後も多くの人を支えていただけると  
幸いです。ありがとうございました。-24歳 男性

“食糧支援はコロナの影響に限らずいつ如何なる時も必ず起こりえることな”  
ので、必要な人に継続的なサポートが必要だとおもいます。-25歳 男性

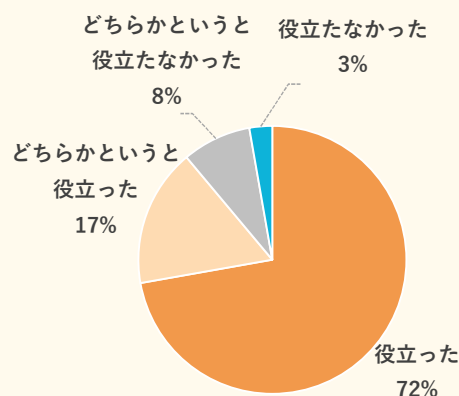
“困ったことを相談できて、本当に助かっています。そもそも親に頼るとい”  
選択肢が初めからないため、直接的に金銭的なことや住まいのことなどを  
支援していただけること。本当に感謝しています。ありがとうございます。  
-22歳 女性

“とても助かりました。しかし安定感のある安心を得られたわけではないので”  
これからも不安との戦いが続くと思うと本当につらくなります。-21歳 女性

“今回の支援金のおかげで今月の生活費をしのご事ができました。”  
支援して頂いた方の気持ちに応えられるよう精一杯努力します。  
本当にありがとうございます。-22歳 男性

若者たちからの感謝の声が、皆さんに届いたでしょうか。同時に、  
今後への不安も聞こえてきました。今回つながった手を離さないよう、  
私たちは、これからも取組みを続けていきます。

### ③ Masterpieceスタッフと個別に お電話等でお話させていただいたことは 役に立ちましたか？



(回答者数：36)



個別ヒアリングの様子

# インタビュー

本プロジェクトでサポートを受けた  
若者の声を聞きました

## あやこさん (仮名)

19歳・児童養護施設出身

### 栄養があるものを食べたかった

給付金を受ける前に一番困っていたことは食事でした。高校を卒業してから正社員として働いているのですが、給与が低く、一人暮らしも初めてで十分な知識がない状態で家賃の高い家を契約してしまったので、以前から食費は削って生活をしていました。家賃補助もないので、給与から家賃、光熱費、携帯代金などを引くと、もう削れる部分は食費しかありません。普段からお昼ご飯を抜いて生活をしていたので周りからは心配されていました。今回、給付金とともに食料支援も受けられて、ほんとうに助かりました。1~2ヶ月は食費をまかなえたと思います。今後も継続的に食料支援があると助かります。

### はじめての就職、一人暮らし、コロナ

2020年4月に就職して、すぐに緊急事態宣言が出ました。会社には行けず、家でオンライン研修のビデオを見る日々が続き、何もすることがなく、辛かったです。会社の人との繋がりもできていない状態だったので、

置いていかれていくような感じがして、不安が大きかったです。ストレスがたまったときは、すぐに寝るか、音楽を聞いたりして趣味でなんとか自分を保つようにしていました。人に相談をすることはしなかったです。普通の一人暮らしというものが分からなかったので、比べられるものがありませんでした。家を決めるときに、施設の人が手伝ってくれて、不動産会社も紹介してくれたのですが、家賃が給与に見合わないで引っ越し予定です。

### こんな支援があったら良いのに

大学生とか専門学生は、毎月奨学金を受けることができますよね。わがままかもしれないのですが、そういうものが就職した人にもあれば良いのにと思うことがあります。また、緊急事態宣言中はずっと一人で過ごしていたので、一人でも充実した時間を過ごせるようなもの、例えば観葉植物、大人のぬり絵、パズル、レストランのペア招待券とか、お家時間を充実させる何かがあれば良いのと思いました。私は、一人でいる間はぬり絵やパズルをやっていました。

### 施設にいるときに、知りたかった

今回のマスターピースの支援は同じ児童養護施設出身の友達が情報を流してくれて知りました。こういった情報は児童養護施設が一番詳しくれば良いのに…。高校3年生になって、施設を出ていくときに、ちゃんと施設の人が教えてくれれば良かったのかなと思います。施設にいるときに確実に情報があれば良いし、信頼関係があるのでその情報を信用できると思います。





photo by Shutterstock

### 相談する相手がほしい

児童養護施設を出てから、相談できる相手がいません。家族とも全く連絡をとっていません。通っていた高校が進学校だったので、就職している友達はゼロです。会社の同期もみんな男性で部署もばらばらなので相談相手がなくて結構しんどいです…。施設のとくに仲が良かった友達も、施設を出てからは家庭に戻ったので、正直、帰る場所があることがうらやましくて…少し妬ましく思っていました。私の施設で、過去に巣立ってから自殺をして亡くなってしまった子がいました。誰にも相談できないような、重いものを抱えていたのだと思います。巣立ってから直面する「孤独」という問題は大きいと思います。相談する人が誰もいない、ということが一番辛いと感じます。

### 言葉の暴力、精神的な虐待について知ってほしい

私は、言葉による虐待を受けてきました。でも、当時は手を出されていないから虐待を受けているとは思ってなくて、誰も助けてくれないと思っていました。小学3年生のときに、学校で月に一回「家で大変なことはないですか？」という

アンケートがありました。虐待というものが具体的にどういふことなのか全く知らなかったで、そのときに気づくことができませんでした。当時、自分がそのアンケートに該当するとは思っていませんでした。そして、その後、私は施設に入る直前に自殺未遂をしてしまいました。もし、あのとき、虐待の専門家がちゃんとどういふ行為が虐待なのか、こういふ行為は言葉の暴力なんだよって教えてくれていたら、分かったのに…と思います。

児童養護施設とか、そういうところに入る子って、小さいときに親を亡くした子とか、身体的な虐待の経験がある子とか、そういう子が多いと思うのですが、私は身体的な虐待がメインではありませんでした。なんといふか、説明するってなると、とても難しいですね。

行動だけでなく、精神的なもの、言葉の暴力で入所する子もいるんだよっていふことを多くの人にわかってほしいです。そして、今でも苦しんでいる子どもたちが1人でも助けを呼べるように、言葉の虐待もあると大人が呼びかけるべきだと思います。

# インタビュー

本プロジェクトでサポートを受けた  
若者の声を聞きました

## ひろしさん (仮名)

19歳・里親家庭出身

### バイトの面接に全部落ちた

沖縄から資金を持った状態で2020年の10月に福岡に来ました。学費と生活費をバイトでまかなう計画を立てていたのですが、すぐにバイトを探しました。12~14回くらい面接を受けたのですが、全て落ちました。来て早々にバイトを見つけてやりくりするという計画が簡単に崩れ落ちました。貯金はあったものの、学費に充てていたので、2ヶ月ほどで資金が危なくなりました。コロナの打撃は大きかったです。フードデリバリーの配達員もやったのですが、マスクをつけようが、消毒しようが、結局人との会話が必要で感染リスクが高いと感じ、こわくなってできなくなり、やめました。ギリギリの状態だったので、今回のマスターピースのことを知り、支援を受けたいと言うだけでサポートが受けられるとのことだったので応募しました。

### 福岡に来たかった理由

福岡に来たのは、歌を習うためです。音楽の専門学校でボイストレーニング、洋楽の勉強などを受けたかったからです。音楽の専門学校は普通は2年制なのですが、自分はもっと勉強をしたいと思っています。でもこんな状況なので悩んでいます。今は春休みですが、福岡にいてもいつ緊急事態宣言が出るかわからないので、里親がいる沖縄に戻ってきました。

里親が自営業で介護の仕事をしているので、今は月曜日から金曜日までアルバイトをさせてもらっています。福岡に残っていたら週に1~2回しかシフトに入れないので、沖縄にいる間にちょっとでもお金を貯めて福岡に戻りたいと思っています。

### 支援のインパクトは完全に「10」

今回のマスターピースからの支援のインパクトを1~10で測るとしたら、自分は完璧に10です。1000円でもいただけたらほんとうに助かると思っていました。ちょっとでもいただけたらと思っていたので、支援してくださった方々にただただ感謝しかありません。沖縄にいたときも、ラジオ番組に出て歌を歌ったことがありました。そのときに、シーサー職人の人が自分に1万円寄付をしてくれたのですが、申し訳ない気持ちもありつつ、「がんばってください」という想いが込められているので、ありがたいというか感謝しなかつたです。1円でもいただけるだけで感謝と思っています。マスターピースからいただいた支援は滞納していた光熱費と未払いだった携帯料金に使わせていただきました。ほんとうにありがとうございました。

### 国がもっと動いてほしい

学生に対して、国がもっと動いてほしいです。1回目の緊急事態宣言のときのように、一律10万円とか払ってほしいです。厳しい人はたくさんいるはずですが、そういう人たちにお金を配るということをちゃんとやってほしい。こちらは生きるか死ぬかの境目なのに。テレビを見ていても政府が言っていることに対して腹が立ってきます。ぶっちゃけ、国が動かないと変わらないと思っています。自分が大変な状況になってから「コロナ・学生・支援金一覧」とネットで調べて、ヒットしたものを1から見たり、LINEをみたり、Twitterをやったり、どこに支援情報があるかを見ています。食料の支援があったら、申し込んでいます。ゲームしている時間があつたら、検索したほうが良いと思っています。

### 3回挑戦して、心が折れた

総合支援資金(※)を受けようと3回挑戦をしました。1回目は自分で調べて見つけて、問合せ窓口に電話をしたら、



photo by Shutterstock

「担当者と話してください」と言われてすぐに電話を切られました。その後、沖縄にいたときにお世話になっていた支援団体に相談をして、福岡にある若者をサポートしている団体に繋いでもらいました。2回目はその団体の方から窓口で相談をしていただいたのですが、「沖縄の社会福祉協議会からも家賃補助と生活費をもらっているのに、どうしてさらに必要なんですか？」と言われてしまい、受け付けてもらえませんでした。沖縄の社会福祉協議会からのサポートがあっても、足りていない分を申請しているのであって、さらに言えば貸付上限額を申請しているわけでもありませんでした。足りていない5万円分だけを申請したかったんです。3回目、再度申請に行ったところ、お金が本当に必要であるという証明書類を準備して、支援団体の人も協議してから来てくださいと言われました。もう、その言葉を言われて心が折れました。5万円を借りたいだけなのに、どうしてこんなに大変な思いをしなくてはいけないのか…とやる気がなくなって嫌になったからです。

### 社会に出たけど、わからないことだらけ

やっぱり、社会に出てもわからないことばかりなんですよ。お金に関しての使い方とかわからないことが多いと思います。「大変です」という一言に尽きます。18歳で一人立ちするってやっぱりすごいことだと思います。周りは親がいる

し、家を出ても戻る場所があると思うんですけど、里子とか施設出身の人とかは戻る場所がないので、みんな何かしらの助けを求めていると思います。そのときに手を差し伸べてほしいなと思いますね。また、里子でも施設でも巣立つときに「相談できる場所」や「こういう支援があるよ」ということを教えてほしいです。ここに連絡したら大丈夫だよという情報があると安心です。相談すること自体が苦手なので、巣立つ前に「相談できる場所」と繋がることは重要だと思います。

### 自分も大変だけど、周りの子のためにも頑張っています

今回、自分がピンチな状態になり、やばい！と自覚し、はじめて自分から沖縄の支援団体に連絡をして助けを求めるようになりました。電話をして相談して、福岡にあるいろんな支援団体と繋がることができました。福岡に来たときに、大変な状態になっても最初は自分の力でどうにかしようとしたのですが、大失敗したので周りに助けを求めるようになりました。それからはアンテナを常に立てておいて、情報収集をしています。自分が支援を受けたり行政支援にチャレンジすることで周りの困っている友達にも「できるよ」って教えることができるので、自分が挑戦することは周りのためにもなっていると思っています。

※ **総合支援資金**：新型コロナウイルスの影響で収入が減少し、生活に困窮している人のための生活再建のための特例貸付制度。単身者の場合は貸付上限額が月15万円以内。貸付期間は原則3月以内。窓口は社会福祉協議会。



# プロジェクトチーム

## まりっぺ

一般社団法人Masterpiece代表理事。元児童養護施設職員。

ご支援くださった皆様本当にありがとうございます！！  
皆様の温かいお気持ちを込めて給付と食料を若者たちに  
送らせていただきました！なかなか見えない社会的養  
護を巣立った若者たちの現状に目を向けてくださりあり  
がとうございます。引き続き現状について発信し、サ  
ポートの輪を広げられるよう頑張っております！



食料送付の様子

## 渡辺 睦美

4歳～14歳まで里親家庭、14歳～18歳まで児童養護施設で生活。  
現在は古民家宿でビジネスを勉強中。  
Masterpieceでは広報/マーケティング担当。

この度は暖かいご支援をいただきまして誠にありが  
うございました！！緊急事態宣言下、たくさんの若者  
からの悲痛な声を聞き、私も心が痛むばかりでした。  
しかしながらたくさんのご支援をいただいた事、大変  
嬉しく、ありがたく感じます。まだまだ気を抜けない  
時期ですが、少しでも助けたいと思っている大人は意  
外とたくさん居るという事を知ってくれたら嬉しいで  
す。

## 吉住 海斗

都内の児童養護施設で育つ。  
大学に通いながら施設と求職者とのマッチング解消に向けて活動  
中。Masterpieceでは動画編集などを担当。

この度はご支援いただき誠にありがとうございました。  
この活動が、困っている若者だけでなく、支援してく  
ださった方なにかのきっかけになっていると嬉しい  
です。改めてご支援いただきありがとうございました！

## 田邊 紀華 (なべちゃん)

9歳から18歳まで児童養護施設にて過ごす。  
現在は障がい福祉にて子どもと関わる。  
社会的養護に特化した療育づくりが夢。

第2回の若者緊急基金にご協力頂きました皆様、本当に  
ありがとうございました。今回の緊急事態宣言でもた  
くさんの若者の悲鳴を聞き、何かできることはないか  
とお手伝いをさせて頂きました。

大変な状況が続きますが、みんなで乗り越え若者の糧  
となれば幸いです。



食料送付の様子

## 梶 大二郎

一般社団法人Masterpieceのボランティア。  
今回若者のヒアリング電話の一部を担当。

若者緊急基金をご寄付やシェアなどで応援いただきました皆様、本当にありがとうございました。コロナ禍の緊急事態宣言により、飲食業等で働くたくさんの若者がシフト減や失業など大変な状況にさらされています。そんな中皆様のご支援のおかげでたくさんの若者にお金や食料を送る事が出来ました。若者からもお礼の言葉がたくさん届いています。改めてご支援いただきありがとうございました。



ユースサロンの様子

## 松本 千春

一般社団法人Masterpieceボランティアスタッフ。  
若者たちへの電話でのヒアリングを担当。  
元千葉県の子童養護施設後援会理事。

ご寄付、並びに食料や差し入れなどのご支援をくださった皆様。多大なるお力添えをいただき、本当にありがとうございました。目の前で「助けて」と訴えている若者たちは、自分たちの子どもと同年代。一人でも多くの「困った」や「助けて」を解決できるよう、若者たちのサポートを今後とも続け、皆様への感謝を忘れず邁進していきたいと思っております。

## 村田 早耶香

NPO法人かものはしプロジェクト／共同創業者

緊急支援にご協力下さった皆様、本当にありがとうございました。昨年、Masterpieceさんが一回目の緊急支援をしていた時に、若者達が食事也十分に取れず、お風呂にも毎日入れないと聞き、同じ日本に住んでいる者としてずっと何かしたいと思っていました。今回一緒にさせていただけたことを嬉しく思っています。

## 小島 瑞代

NPO法人かものはしプロジェクト  
ソーシャルコミュニケーション部／日本事業担当職員

今回ご支援いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

コロナ禍で世界中が大変な状況の中、インドでの活動も続けつつ、日本でできることがないかというのを悩んでいる最中、マスターピースさんに出会うことができました。そして、今回のクラウドファンディングに関わることができ、感謝しています。

## 田口 陽子

NPO法人かものはしプロジェクト  
日本事業／経営企画管理担当職員

コロナ禍で多くの方が深刻な状況にある中、何もできない自分に無力感を感じていました。でも今回、沢山の方々の気持ちが集まると大きな力になることを実感し、Masterpieceの皆さんが一人ひとりに寄り添う姿に胸を打たれ、そして何より、厳しい環境下で力強く生き抜こうとする若者たちの声を聞き、希望を感じました。ありがとうございました。

# 必要とされる社会のサポート



photo by Shutterstock

社会の荒波を生き抜く若者たち。

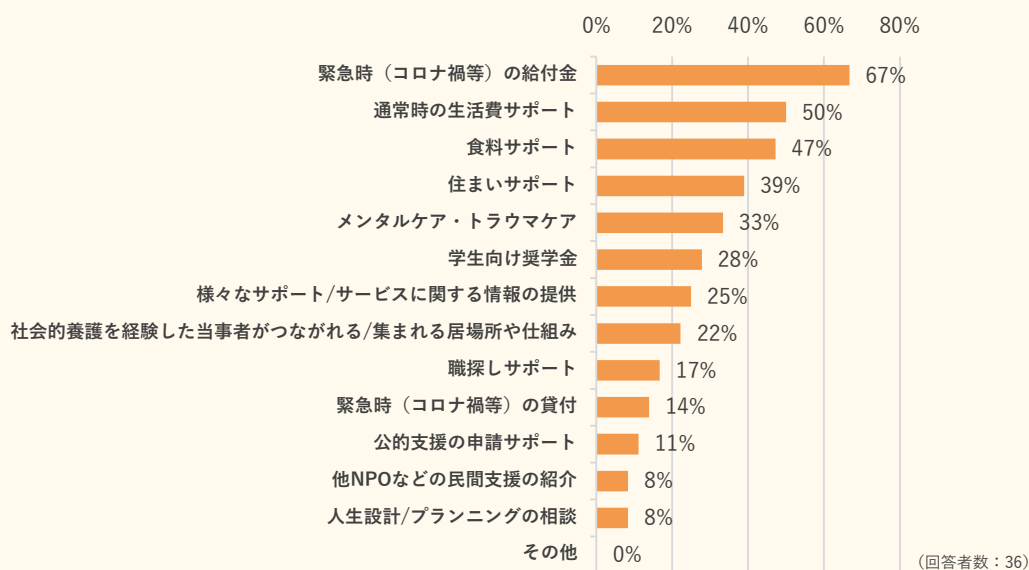
彼ら・彼女らに対して、どんなサポートがより求められているのでしょうか。第2回若者緊急基金事後アンケートにて、若者たちに質問したところ、以下のような回答結果となりました。

親などの後ろ盾がないことは、物理的にも精神的にもセーフティネットが少ない状況であります。そのため、今回のコロナのような「有事」が、若者たちにとっては大きな打撃になりやすく、「緊急時の給付金」が必要と回答された方が最も多いことは、納得です。同時に、通常時の生活サポートや「食」「住」といった、生きるための基盤へのニーズの高さや、それについて、3人に1人が心のケアの必要性をあげていることも印象的です。

ギリギリの生活をなんとかつなぐための緊急支援が重要であることは、前回、および今回の若者緊急基金の取組みからも、痛感いたしました。一方で、一回だけの支援で生活が、人生が、回復するわけではないこともまた事実です。

大人たちに人生を翻弄され、大変な経験やつらい思いをしながら、生き抜いてきた彼ら・彼女らが、自らの人生を生き生きと歩いていくことができるよう、継続的に寄り添っていきたいと思います。そして、その旅路を、多くの方々に支えていただけることを願っております。

## 社会的養護を巣立った若者に対するサポートとして、 もっと充実すべきと特に思う項目は何ですか？



最大5つまで複数選択可、回答者のうち、各項目を選択した人の割合を%で表示



## 社会的養護を巣立った若者たちの 応援をお願いします！

一般社団法人Masterpieceでは、虐待など様々な理由で親と離れて暮らす子どもたちが生活する、児童養護施設などを巣立った若者たちをサポートしています。シェアハウスによる住居サポート、フードバンクによる食料サポート、ユースサロン開催、発信活動などを行っています。Masterpieceに連絡をくれる若者の中には緊急対応が必要なことがあります。金銭的な問題、住居問題、仕事、人間関係、実親との関係の課題など様々です。

私たちの継続的な働きのためには資金が必要です。シェアハウスの維持、若者の交通費や緊急サポートなど使途は様々です。親や親戚などを頼れず八方塞がりになってしまうことの無いように、社会的養護を巣立った若者たちへの継続的なご支援をよろしくお願いいたします！



ユースサロンの様子

## 虐待などによって親と離れて暮らすこと

親と離れて暮らす子どもたちの背景には様々なことがあります。親との死別や、病気などによって養育できないという理由もありますが、半数は虐待が理由となっています。

虐待には、身体的暴力だけでなく、心理的に追い詰めること、育児を放棄すること、性的搾取といった種別があります。「お前なんて！」と肉親から否定的な言動を受けてきた子どもたちの心理状態を想像することはできますか？

そこから保護された子どもたちは児童養護施設や里親家庭等で過ごすことになります。その数は国内に約45,000人。日本では約80%が児童養護施設で暮らしています。そして、子どもたちの多くはおよそ18歳で一人立ちをしなくてはなりません。自己肯定感が低いまま、自分の人生や将来に希望を持ってないまま、大人や社会を信頼できないまま社会に巣立つ若者もいます。そして、そういった目に見えない生きづらさと戦いながら、若者たちは社会の荒波に立ち向かっていくのです。

## 施設を巣立った若者達の声

“施設出身だから、仕方ない”

“親の悪口言ってる友だちが羨ましい・・・”

親がいるだけいいじゃん

“（進学しても）周りの子たちと”

自分の境遇が違いすぎて辛い

“保証人になってくれる人がいない”

（「僕らの声」冊子より）

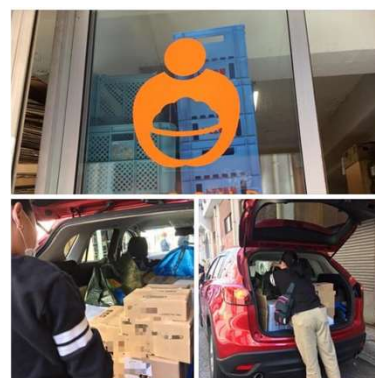
施設を巣立った若者たちの声です。児童養護施設を巣立った若者のおよそ80%が高卒で働いています。進学を望みながらも金銭的な状況で諦める若者たちが多くいます。奨学金は増えましたが、相当な志やモチベーションがないと奨学金が通らないのです。「一般家庭で育った多くの若者がしているような『何となく進学すること』は、私たちには許されません。施設出身だから仕方ない、我慢、自己責任、誰かのすねをかじることもできないので自分で何とかしていくしかない。」そのように、若者は生活のことから学校、仕事のことなどを自分でこなしていくのです。

# Masterpieceの活動と今後のご支援のお願い

代表の菊池は児童養護施設退職後、2015年から施設を巣立った若者たちと関わるようになりました。2017年11月に一般社団法人Masterpieceとして本格始動しました。その後、思いが思いを呼び、熱い思いを持つ仲間たち30名ほどで活動を行っています。児童養護施設の前職員やボランティア経験がある方、心理士、弁護士の方の協力も得ながら、一緒に若者たちのサポートに当たっています。そして、「自分の経験を活かしてこれからの子たちにできることをしたい!」と、施設を巣立った若者も活動に加わってくれています!

施設職員時代の菊池の「シェアハウスをやりたい」という思いから始まった「住居サポート」、また生きるためには「食料」が欠かせないということで始まった「食料サポート」、そして、そもそも困る若者を生み出さないための制度を作っていくなくてはならないということで始まった「発信事業」。どれも欠かせないものです。

「今目の前にいる若者のサポート」と「制度を作ってもらうための働きかけ」は車の両輪のようにどちらもなくてはならないものです。若者たちの現状、声を知ってもらいたい、それは私たちだけでなく、若者たち自身も思っていることです。今必要なことに目を向けて、工夫をしていながら、今の若者たちに必要なことを若者たちと一緒に考えていきます!ぜひ継続サポートの応援をお願いいたします。



食料配送の様子

## メディア掲載

### 毎日新聞

特集新型コロナウイルス

「1日1個のカップ麺生活」困窮の淵に立つ  
養護施設出身者の現実

### 朝日新聞WEBサイト

2030SDGsで変える

長期化するコロナ困窮 社会的養護出身の  
若者たちに支援を

### MASHING UP

「1日1個のカップ麺生活も。なすすべなく  
社会で孤立する若者たちの現状」「ここ  
にたどりつけて良かった」という若者を増  
やしたい/Masterpiece代表 菊池真梨香

## 継続サポートをお願いいたします!

いただくご支援は下記の活動をするために大切にに使わせていただきます。

継続支援の方には一年に一度の活動報告書をお送りいたします。

皆さんと共に、社会的養護を巣立った若者を支えていけたらとても嬉しいです。

生き立ちによらず、頑張る若者が報われる社会を一緒に作りましょう!

ご寄付はこちらから



一般社団法人Masterpiece  
WEBサイト

### シェアハウス 事業

シェアハウスを維持する  
ための費用として。  
また、緊急保護の方の生  
活立て直しまでのサポー  
ト費用として。

### フードバンク 事業

食料配送が必要な若者へ  
食料を届けます!  
(月15~20配送)

### ユースサロン 開催

孤立解消のため、人と出  
会う場所として、ユース  
サロンを月に一度開催し  
ています!

### 発信活動

発信活動のための冊子  
づくりやグッズを作成  
しています。

### 個別サポート 費用

緊急対応のための若者へ  
のサポート費用。交通費や  
つなぎ資金。貸付等。

# Masterpiece

## 代表よりご挨拶

この度は、第2回Masterpiece若者緊急基金クラウドファンディングへの寛大なご支援を本当にありがとうございます！

「前回よりヤバイです」

その言葉にまた押し出され、今回も緊急基金プロジェクトを行うに至りました。Masterpieceとしては他の新規事業（シェアハウス立ち上げ）もある中ではありましたが、若者たちの現状の叫びを聞いた時に、私たちの前には「やる」という選択肢以外ありませんでした。今回は、かものはしプロジェクトさんが協力してくださることになり、とても心強いプロジェクトとなりました！ありがとうございます！

親や身内を頼り辛い若者たちにとって、緊急事態宣言のような状況は時に命にかかわる事態となります。また、周りの人を見て「実家を頼れる人は良いな」と羨ましくなったり、孤独を感じてしまう時となります。そんな中、皆様のご支援を通して「あなたは一人ではない、応援しているよ！」というメッセージを若者たちに送ることができました。本当にありがとうございます！

「現金給付が一番に必要な支援か？」

私たちはそれに100%「Yes」とは答えません。

しかし、目の前に倒れている人がいるのに、目の前で議論している時間はありません。様々な面のサポートは必要です。しかし、まずは「生き延びる」ことが必要だと思います。給付と同時に食料配送を希望する若者もとても多くいました。生活が厳しくなると食費を削らざるを得ません。食費を削ると体の元気が無くなり、心の元気も無くなっていきます。だから私たちはまず生き延びることができるようにというサポートを大事にしています。

「いただいた食料を毎日食べています。助かってます！」など、若者から感謝のメッセージが届いています。

今回の緊急基金プロジェクトによって、若者たちに給付金と食料、励ましのエールを送ることができました。

これもご支援くださった皆様のおかげです！

心から感謝いたします！

まだまだ先行きの見えないこの社会の中で、彼らにとって厳しい状況が続いていく恐れがあります。引き続き社会的養護にご関心を持っていただき、若者たちを応援していただけたらとても嬉しいです！

よろしくお願いいたします！

2021年 4月

一般社団法人 Masterpiece  
代表理事 まりっぺ





Masterpiece

第2回

若者  
緊急  
基金

プロジェクト

報 告 書